

篠木自治会

しのぎ冬まつり

新年の親睦行事「しのぎ冬まつり」は平成15年から毎年恒例で行っている。子どもから高齢者、岩手看護短期大学の学生も閉学するまでの10年間に亘り参加し、世代間交流の場としても大きな役割を果たしている。「活動はみんなで、イベントは手作りで」をモットーに女性部が前日から仕込んだ手作りの料理を振舞う。まつりでは餅つきやみずき団子づくりの体験をはじめ、様々な出し物が企画される。体験を通して篠木の伝統を継承し、郷土愛を持ってもらうこともこのイベントが持つ大切な役割だと考えており、子どもたちが大人になってからも篠木を思う気持ちを育むことにつながっている。



創立50周年記念式典&しのぎ冬まつり

篠木自治会創立50周年

篠木自治会は、令和元年度に創立50周年を迎え、記念式典・祝賀会の実施と記念誌（自治会の歩み）を発行した。この年の冬まつりは、記念式典と祝賀会を兼ねて開催され、来賓及び招待者43

人、地域住民約130人が参加し、永年、自治会活動に功績のあった役員の方々が表彰された。祝賀会は恒例の篠木神楽の演舞に始まり、地域の子ども会・老人クラブ（長寿会）等による出し物にも力が入った。また、記念事業として、篠木地区の避難所に指定されている篠木小学校に防災用倉庫を2棟設置したほか、自治会役員の防災学習会も開催し、地域の皆さんが今後も安心して暮らせるよう決意を新たにした。

クリーン作戦

毎年春と秋に2回行われるクリーン作戦。近年は朝6時からという早い時間にもかかわらず、約400人が参加している。草刈りやゴミ拾い、子ども会による花植えが行われ、参加者には飲み物が提供される。地域の人で顔を合わせることで住民同士のつながりも形成できると共に、一人ひとりが地域のことを自分事として取り組むことで地域への愛着も大きくなると考える。

今後の展望

下田会長は、次のように語っていた。近年、新型コロナウイルス感染症の拡大により自治会活動も全体的に自粛を余儀なくされているが、コロナ感染症が一日も早く終息し、早く普段の活動に戻れるよう願う。その上で篠木自治会のビジョンである「伝統的な文化を継承し、豊かな人材を育てる里篠木」の実現を目指す。そのためにまずは、篠木神楽の伝承活動に注力し、併せてこれからの人材確保の観点からも大釜駅前の賑わい創出を実現したいと考えている。



篠木神楽